

決算説明資料

2025年3月期



Listed Company 4241

2025年5月
株式会社アテクト

2025年3月期(第56期) 業績総括

通期連結業績予想値と実績値との差異について

半導体資材事業において中間連結会計期間から第3四半期連結会計期間にかけては液晶パネル需要が在庫調整により減少しておりましたが、当第4四半期連結会計期間には需要は回復傾向となりました。

また衛生検査器材事業における販売価格の適正化が進んだことや、PIM事業において自動車用ターボ部品販売が再開したことにより2025年2月7日に公表いたしました通期連結業績予想値を大きく上回る結果となりました。

尚、当期の期末配当金につきましては、将来的な業績動向や株主の皆様への利益還元等を総合的に勘案し、1株当たり10円とさせていただくことといたしました。

【2024年4月1日～2025年3月31日】

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	3,100	50	35	20	4円52銭
実績値 (B)	3,201	80	64	40	9円09銭
増減額(B-A)	101	30	29	20	
増減率(%)	3.3	61.3	84.9	100.9	
(ご参考)前期実績 (2024年3月期)	3,175	64	78	△244	△55円27銭

全社連結業績

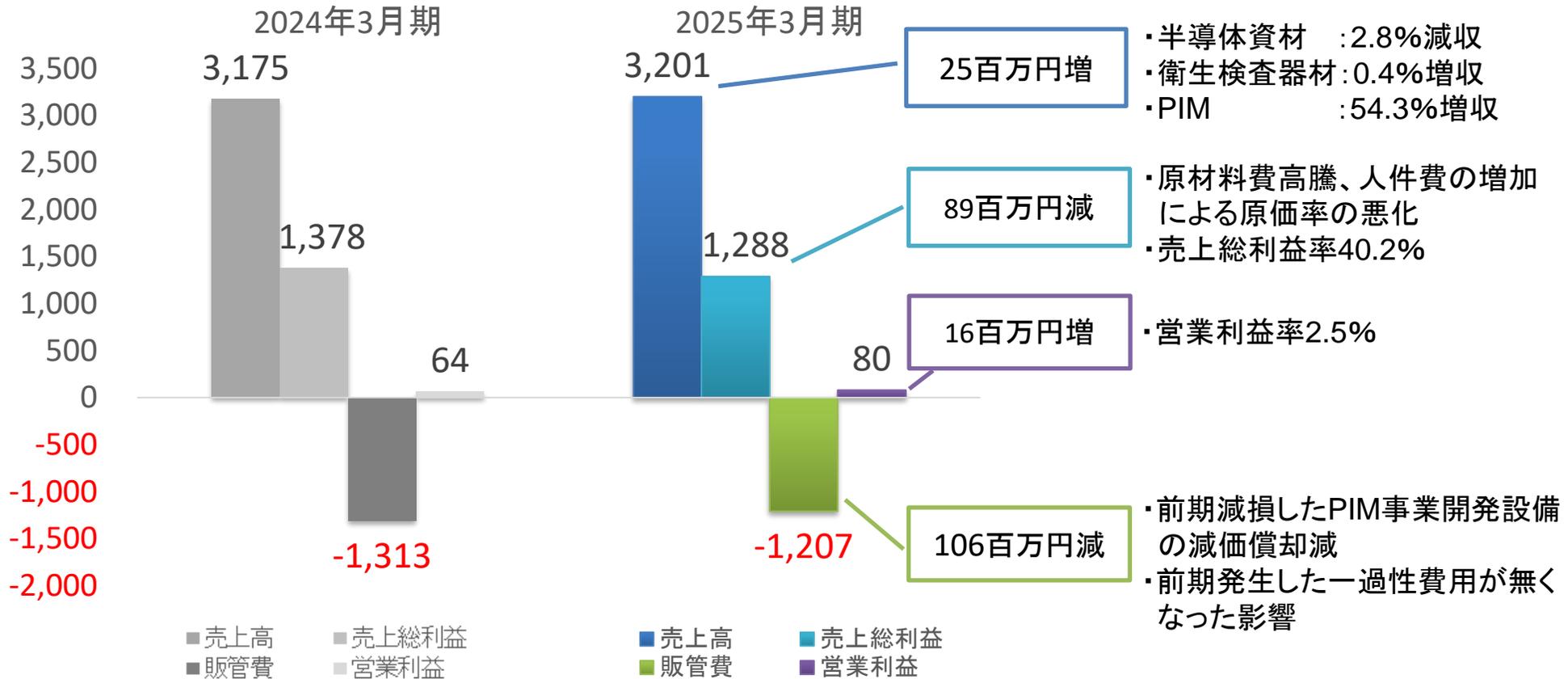
(単位:百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	増減率
売上高	3,175	3,201	0.8%
売上総利益	1,378	1,288	-6.5%
	43.4%	40.2%	
営業利益	64	80	25.0%
	2.0%	2.5%	
経常利益	78	64	-18.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	-244	40	-

- 半導体資材事業は2Qから3Qにかけての再度の在庫調整により減収
- 衛生検査器材事業の売上高は創業以来過去最高を更新
- PIM事業の売上高は自動車部品の量産再開により過去最高

2025年3月期収益サマリー

(単位:百万円)

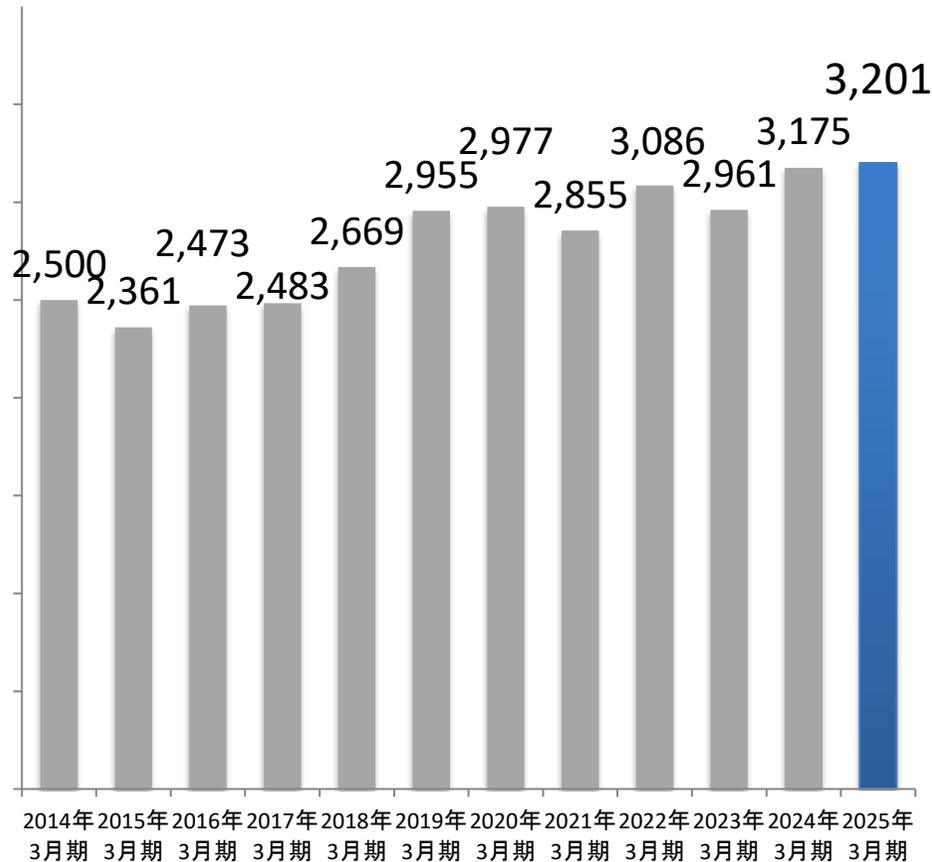


資源高や人件費の増加により原価率が悪化、販売価格の適正化等を進めてきたが、売上総利益は89百万円減少
 前期減損したPIM事業開発設備の減価償却費等による販管費減少により、営業利益は16百万円増加

全社連結業績推移

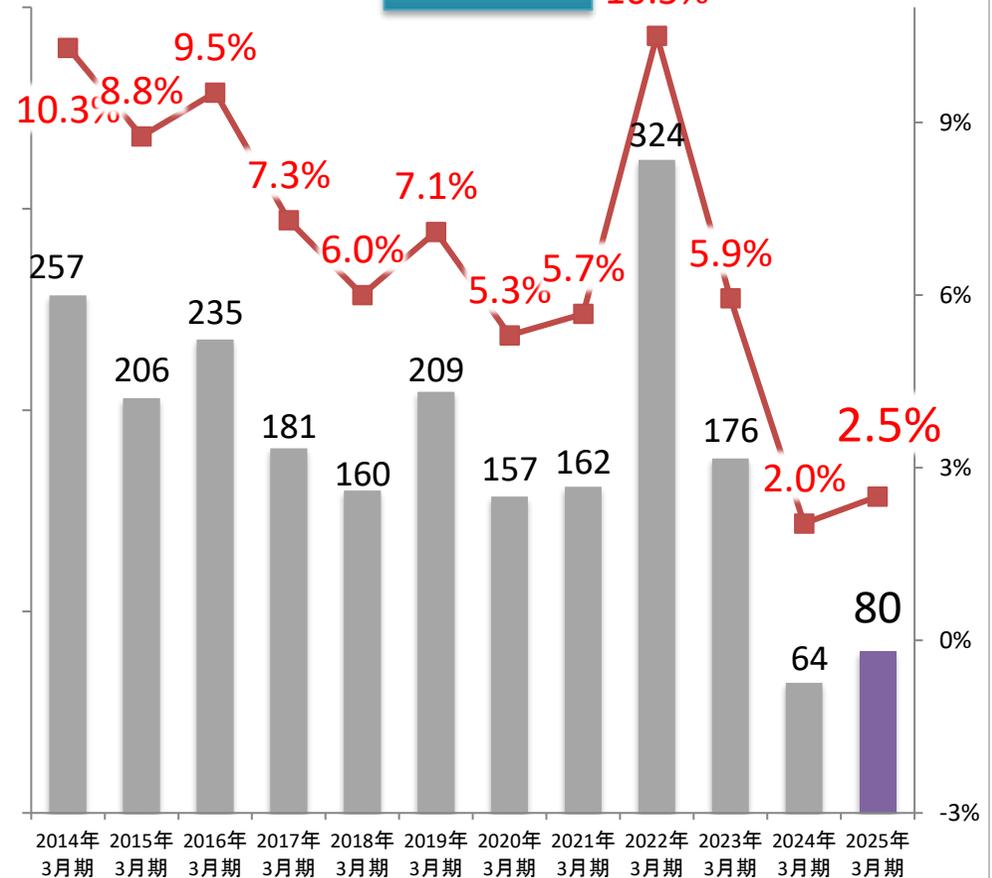
(単位:百万円)

売上高



(単位:百万円)

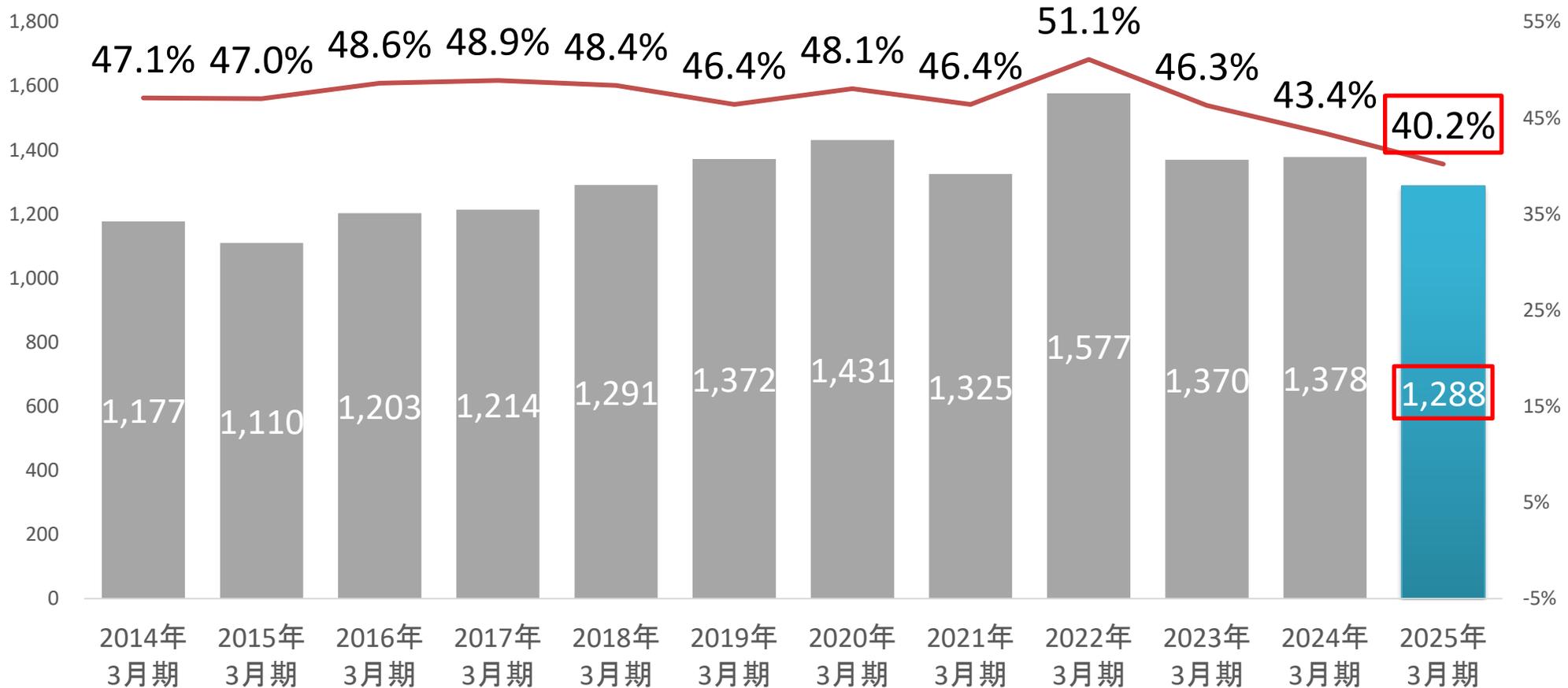
営業利益



衛生検査器材事業とPIM事業の売上高は過去最高となり、全体の売上高は2012年の構造改革以降最高となったが、原材料の高騰等により営業利益は低調となった

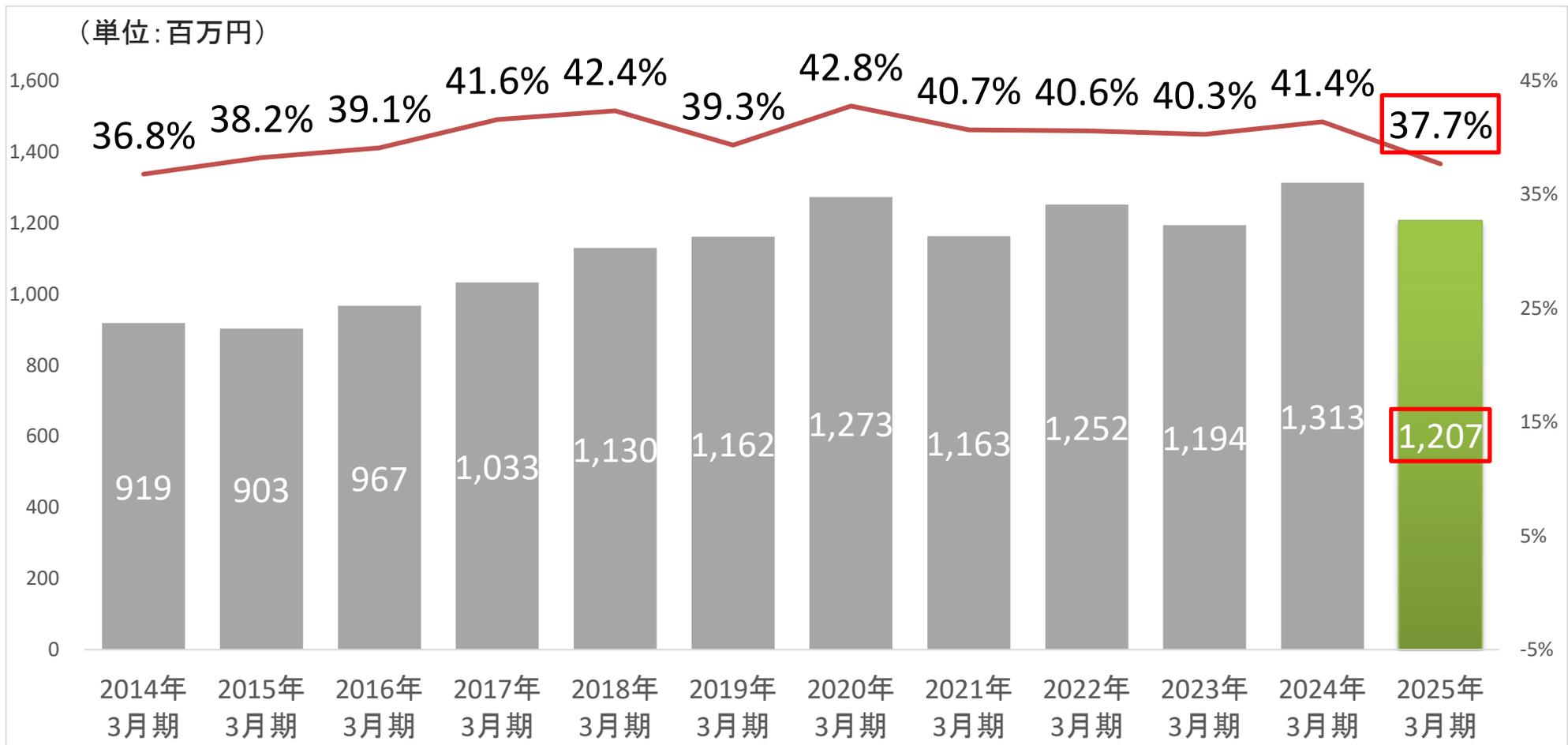
売上総利益推移

(単位:百万円)



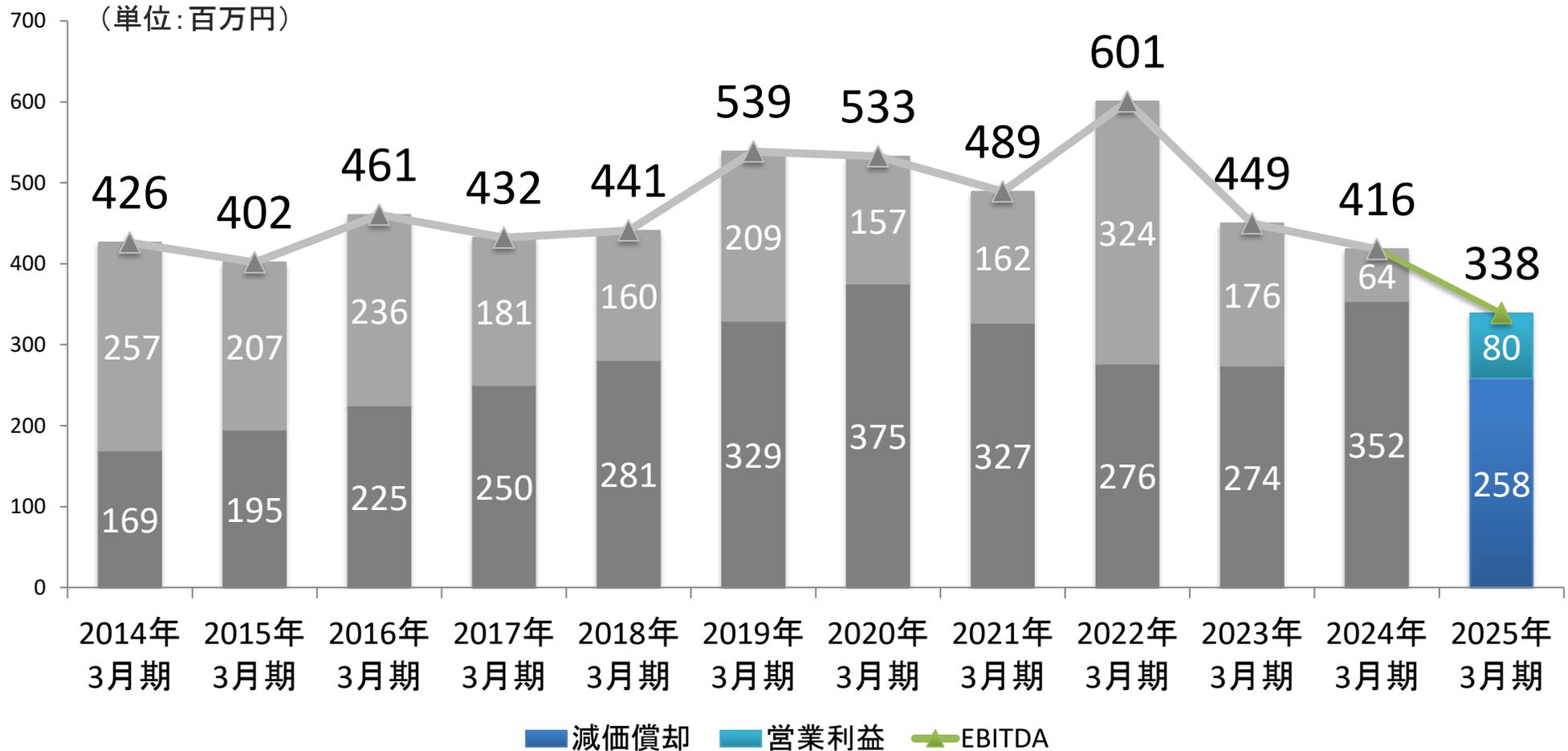
原材料の高騰、人件費により原価率が悪化、販売価格の適正化を進めてきたが売上総利益は減少

販売管理費推移



前期減損したPIM事業開発設備の減価償却費や前期発生した一過性費用が今期は発生しなかった影響により販管費は減少

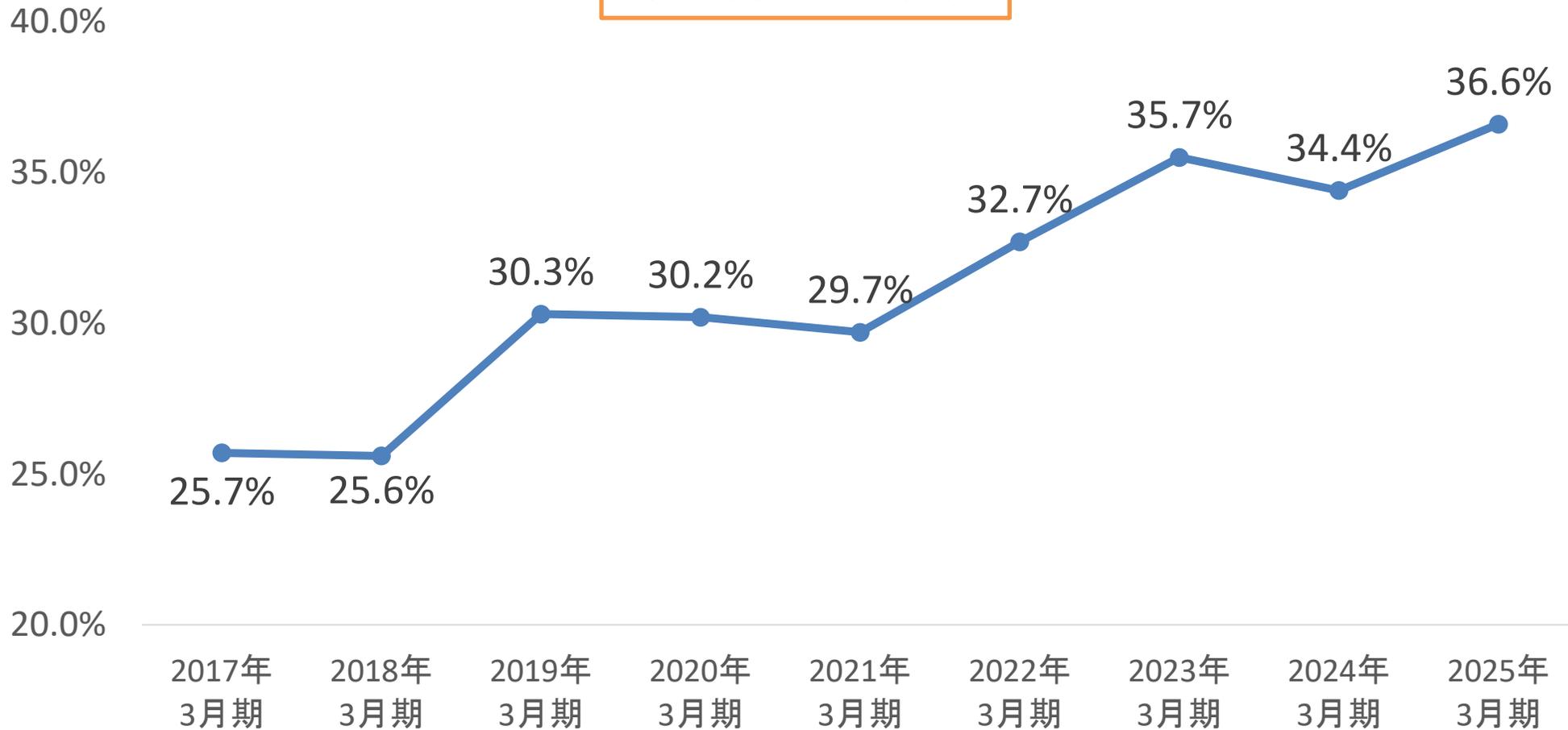
EBITDA: 企業収益力



前期実施したPIM事業開発設備の減損により減価償却費が減少したが、材料費の高騰等や人件費の増加により営業利益が伸びず、EBITDAは減少

財務健全化

自己資本比率推移



借入金の減少により自己資本比率は上昇

各事業の現況と今後について

1. 半導体資材

- ①当第4四半期連結会計期間においては出荷数量は増加の傾向が見られたが、第3四半期連結会計期間において在庫調整局面を迎えた影響により**僅かに減収**
- ②米国による関税政策発動による影響や、中国国内における景気の低迷など**不確定要素も多く**、動向について引き続き注視

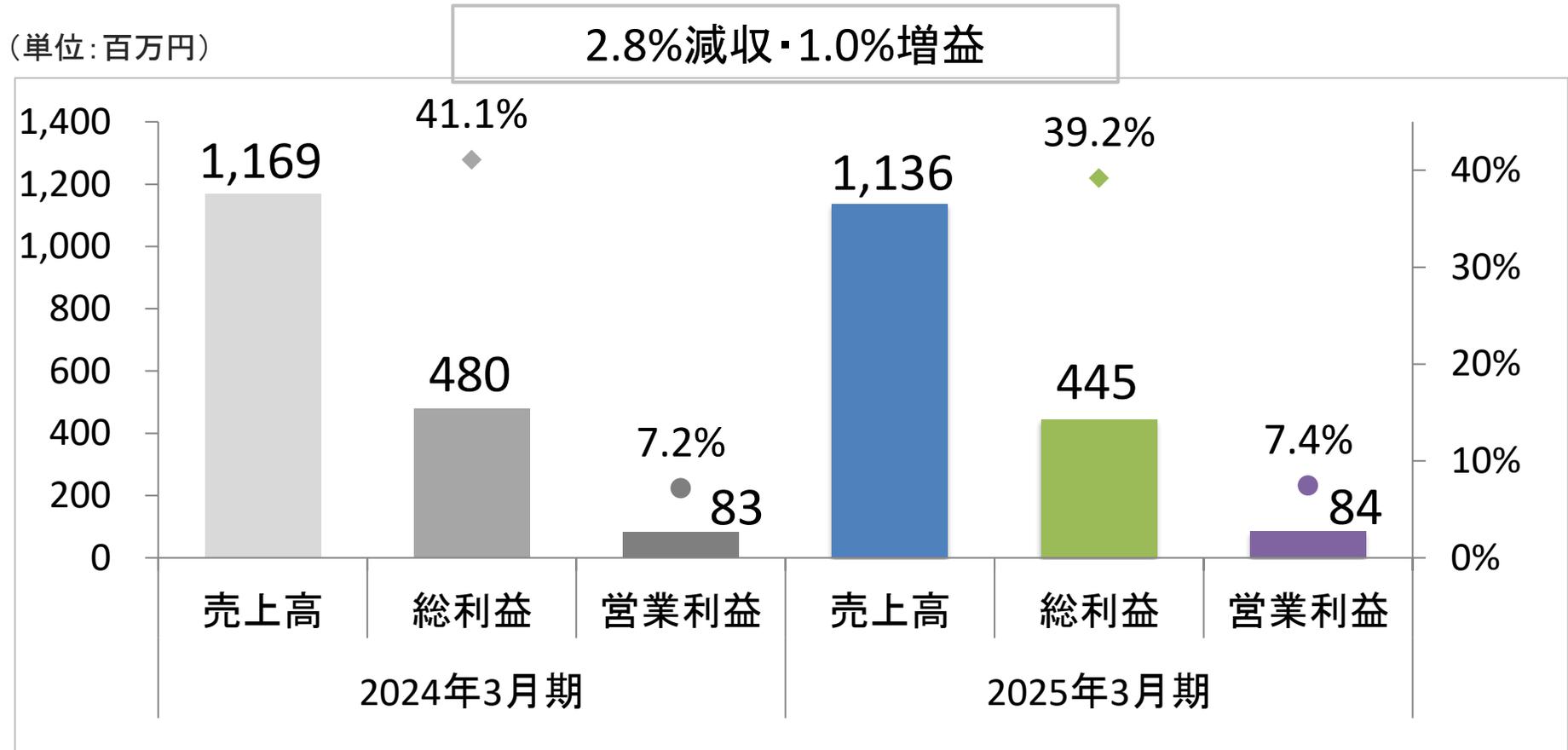
2. 衛生検査器材

- ①インバウンド需要の復活に伴い外食需要はコロナ禍以前を上回る状況は**好調に推移**
- ②内食・デリバリー及びテイクアウト需要による当事業の主たる顧客の販売も**同様に伸長**
- ③新製品として簡易型微生物検出用培地「aS-Medium」の販売を開始し**積極的な拡販活動を展開**
- ④シャーレの主原料であるPS(ポリスチレン)材価格の高止まりに伴う**販売価格の適正化を積極的に推進**

3. PIM

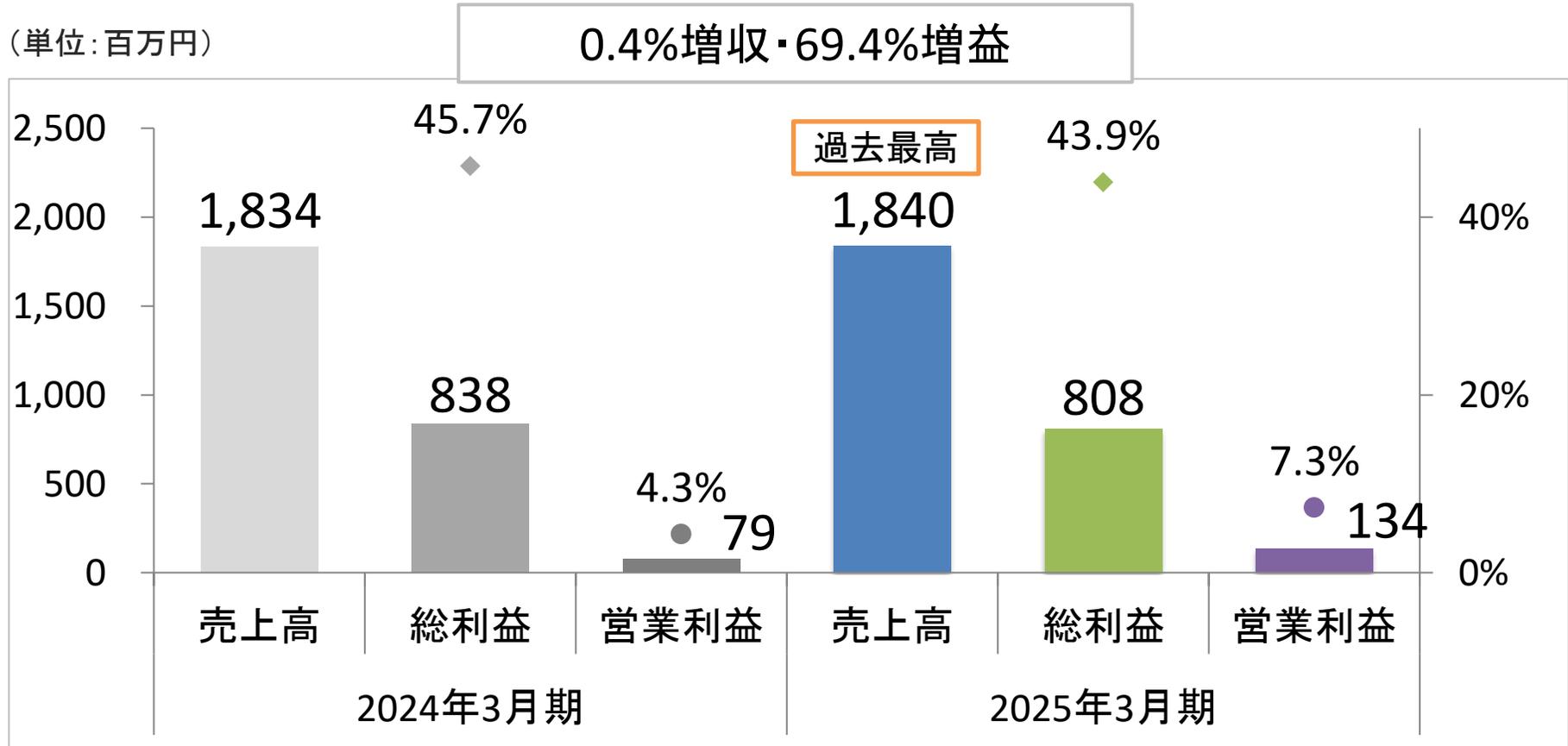
- ①自動車用ターボ部品の製品の量産出荷が再開したことに加え、産業機器向けの高機能部品の販売も堅調に推移し**大幅な増収**
- ②製品立ち上げや設備保全に伴う費用等の増加により、PIM事業単独では**営業損失が拡大**

1. 半導体資材事業



- 通期販売数量は6,280万m(前期比7.4%減)
- 米国による関税政策発動による影響や、中国国内における景気の低迷など動向を注視

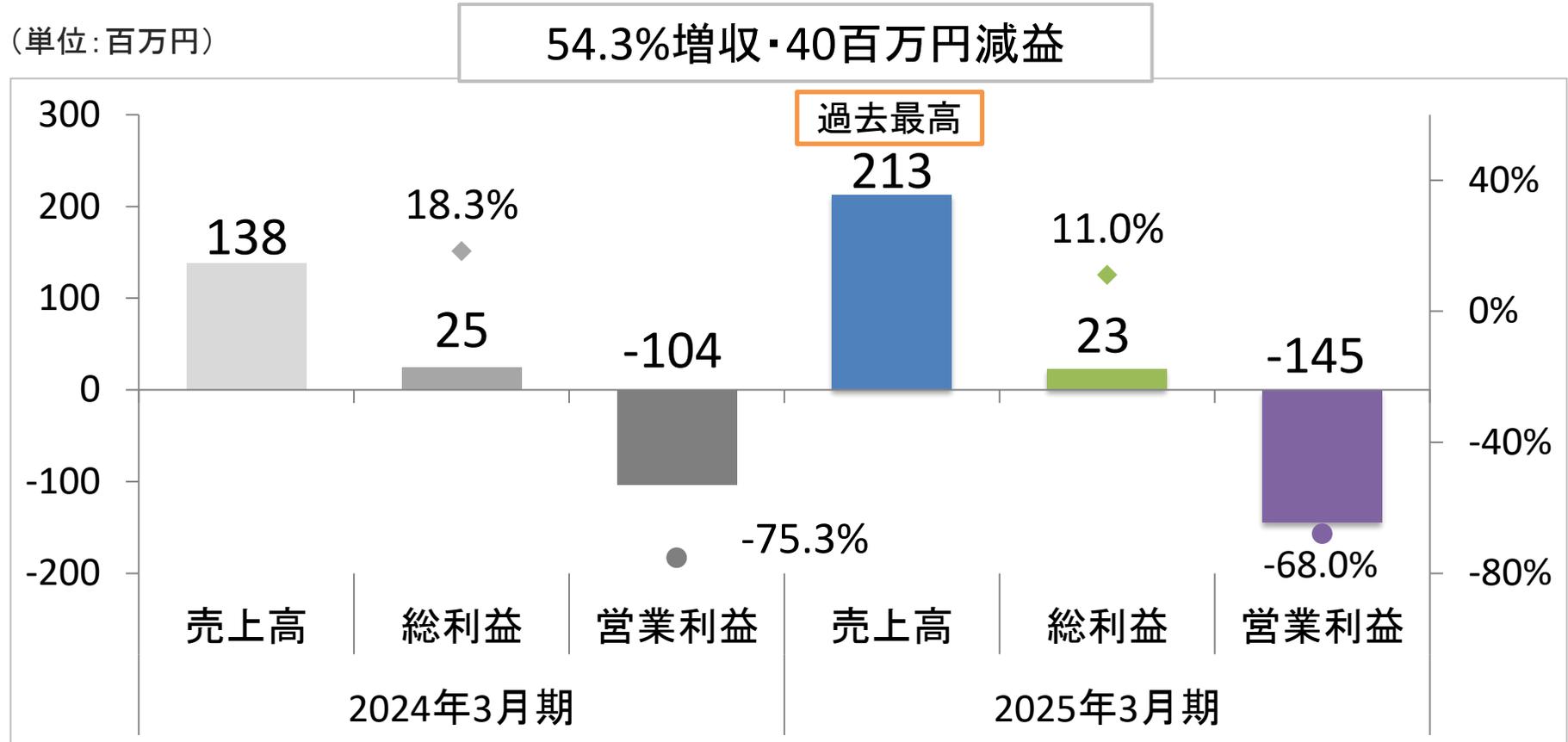
2. 衛生検査器材事業



●売上高は過去最高を更新

●PS(ポリスチレン)材等の価格高騰の影響による原価圧迫に対し、製造合理化による原価低減及び販売価格の適正化を積極的に推進

3. PIM事業



- 自動車用ターボ部品量産は出荷再開し、高機能部品については堅調に推移
- 人件費並びに製品立上げや設備保全に伴う費用が増加

2026年3月期（第57期） 業績見通しについて

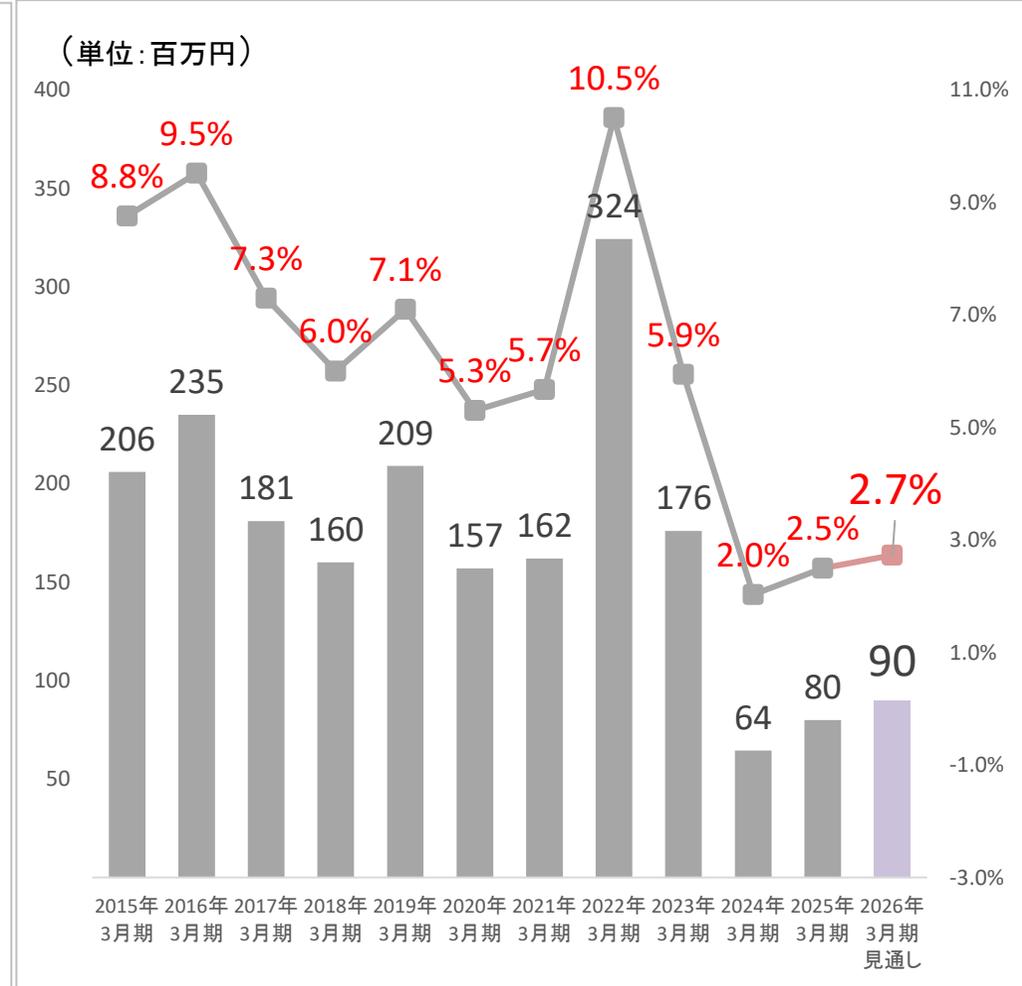
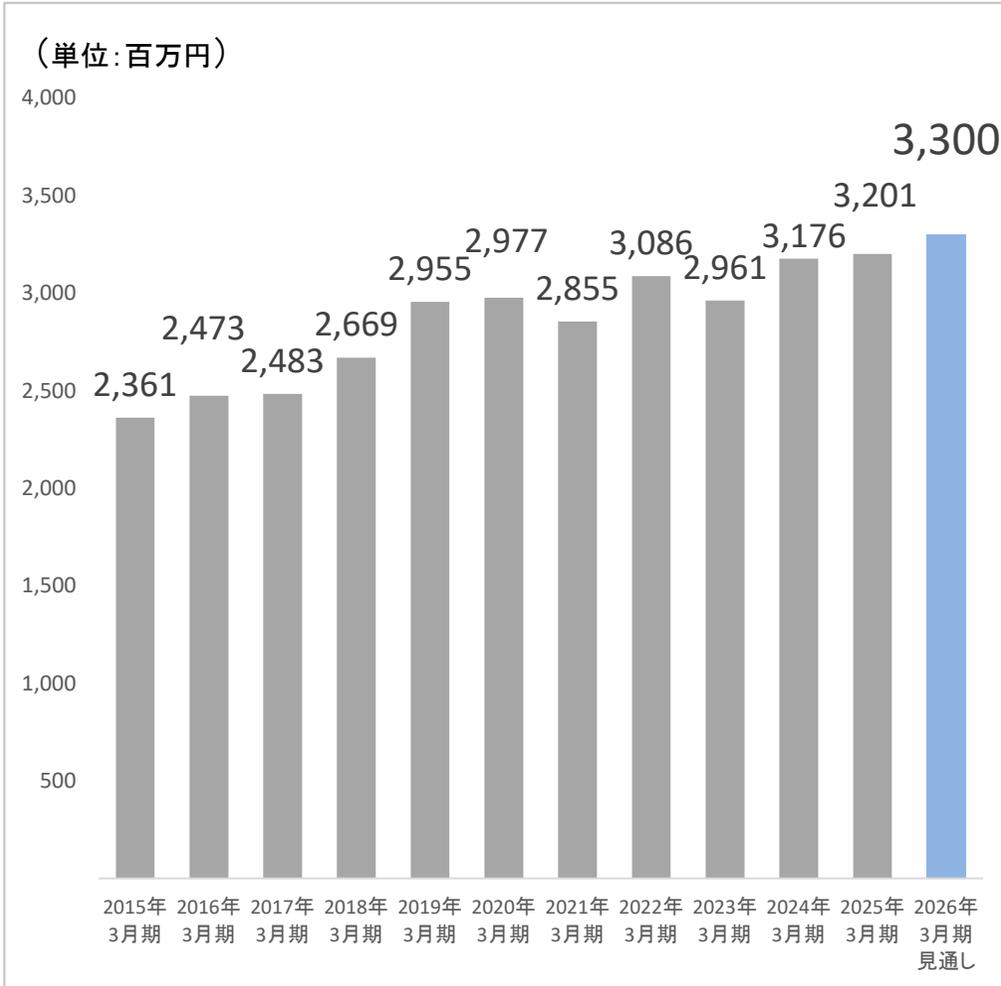
2026年3月期事業計画

(単位:百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	増減率
売上高	3,201	3,300	3.1%
営業利益	80	90	11.6%
	2.5%	2.7%	
経常利益	64	70	8.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	40	50	24.5%
配当予想	10円	10円	-

- 売上高は着実な成長を継続
- 原材料・エネルギーコスト・人件費の高騰の影響は継続する見込み
- コストアップに対し、引き続き販売価格の適正化の強化と生産効率向上を実施

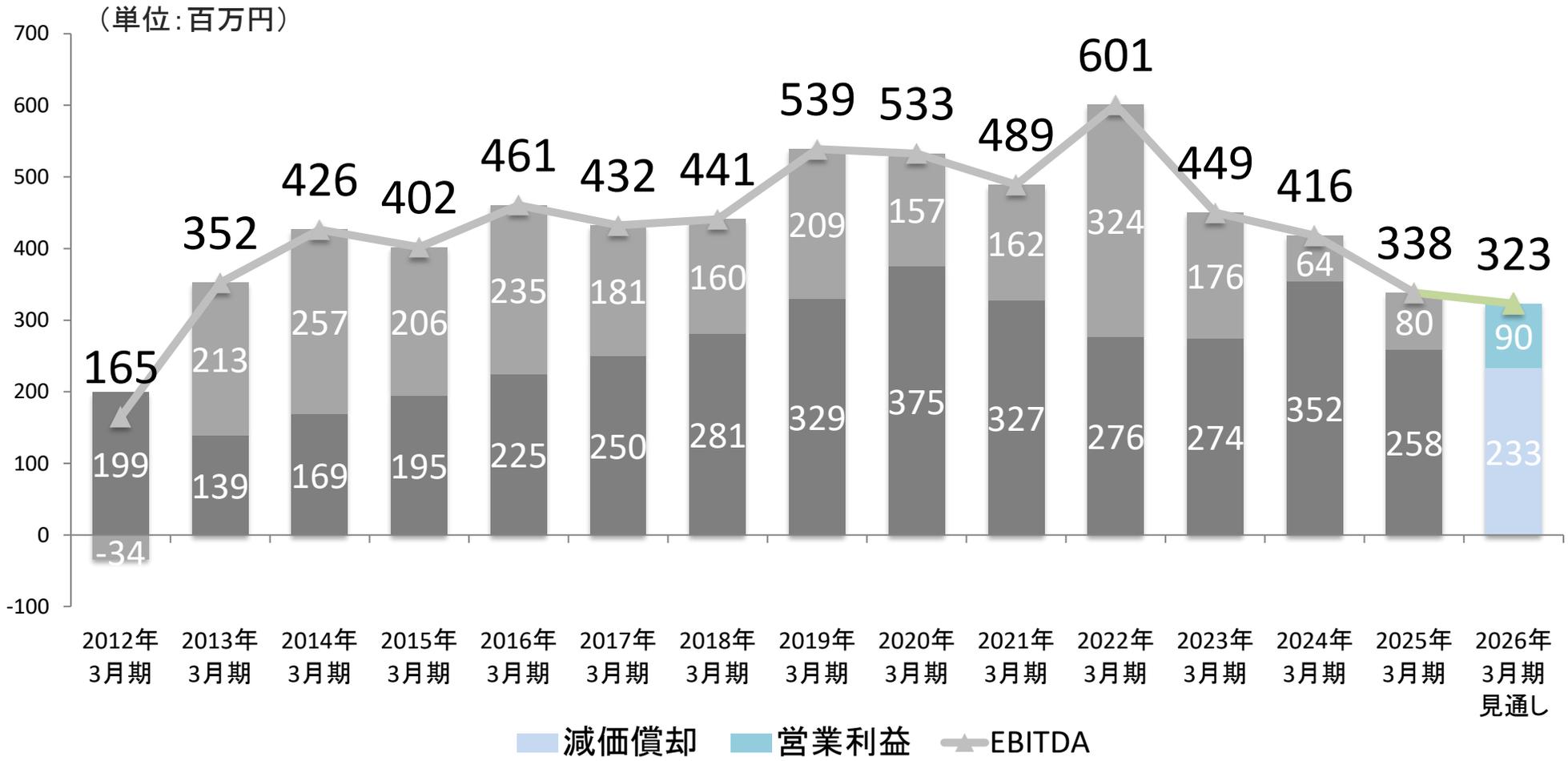
全社連結業績推移



売上高は確実な成長を目指す

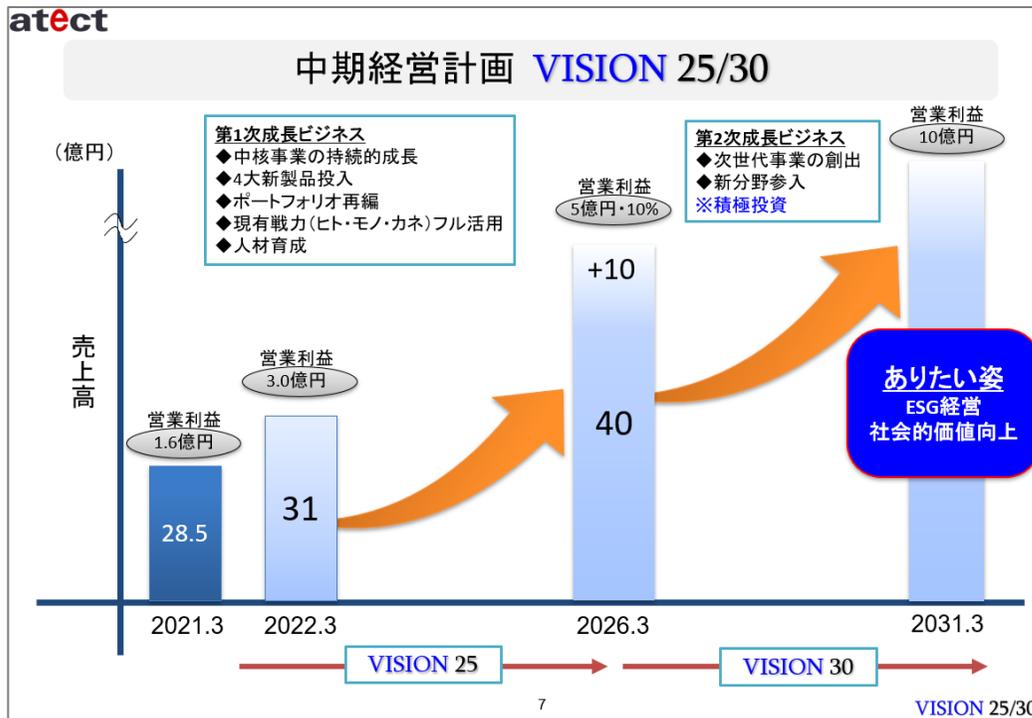
材料費・エネルギーコストの高騰は継続
販売価格適正化等により営業利益は伸長

EBITDA: 企業収益力

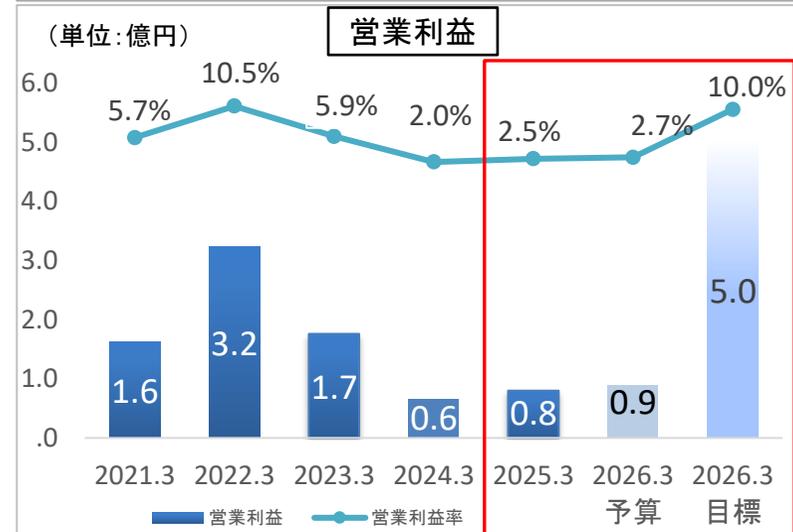
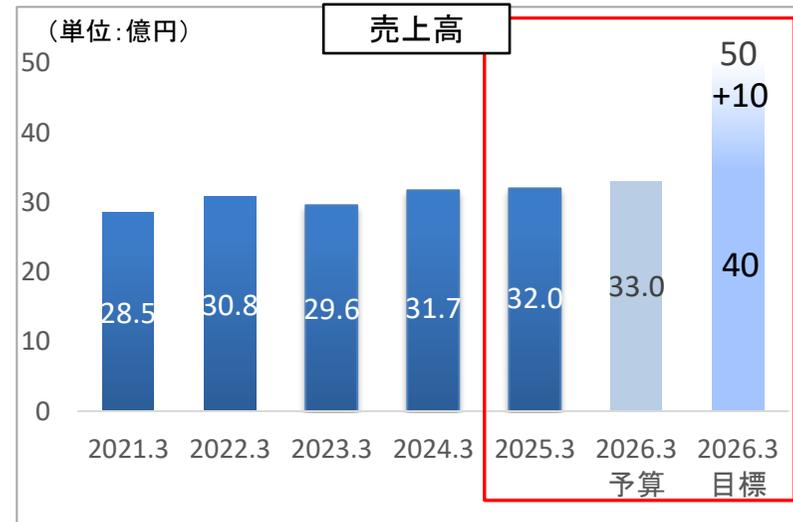


営業利益はやや回復するが、減価償却費の減少によりEBITDAは減少

中期経営計画 (VISION 25/30) 進捗



4次年度の結果と最終年度の目標



VISION 25に対しては大きくビハインドして着地する見込みですが、新経営体制により財務体質の改善や人材確保・育成、新たなビジネスへ種まきなど基礎固めを着実に実施してまいりました。

今年度は続くVISION 30に向けた準備の最終年度と位置づけ、本格的な成長につなげる活動に邁進してまいります。

2026年3月期事業別アクションプラン

1.半導体資材事業

- ①変化する需要に対応したフレキシブルな生産体制
- ②COF (Chip on film)用途以外へのスペーサーテープの拡販活動
- ③製造原価の改善による更なる高収益体質の確保

2.衛生検査器材事業

- ①本社と5営業拠点(東京・大阪・福岡・名古屋・仙台)を活用した販売体制の強化
- ②生産設備の計画内稼働率100%化による生産性の向上
- ③aS-Mediumの拡販による売上増加
- ④既存技術を活用した新たな用途開発

3.PIM事業

- ①自動車用ターボ部品の本格量産再開と高機能部品の販売回復による売上拡大
- ②高機能部品の新規受注による売上拡大
- ③全生産品のOnePass率95%以上の工程品質確保
- ④新たなセラミックス分野の製品化に向けた技術開発

免責事項

当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。当資料記載の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、転送等をおこなわれぬようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ

株式会社アテクト 事業管理部 IR担当

TEL: 0748-20-3400

E-mail: ir@atect.co.jp